

第498回 NPO法人 越谷市郷土研究会 史跡めぐり

吉田茂が愛した大磯を歩く

平成31年3月28日（木）

案内者 森田三男、岩本勝義、大内登、大野悦治、矢野美保子

森田喜八郎、小林憲子、新田竹明

コース 7時半集合 北越谷駅→（高速道）→^{ろくしよ}1六所神社→²旧吉田茂邸→
 <昼食>→^{しぎたつあん}3嶋立庵→^{てるがさき}4照ヶ崎海岸→⁵平塚八幡宮→（高速道）→
 北越谷駅（18時頃）

はじめに

相模湾沿岸一帯は、明治期から別荘、保養地を形成して、首都圏で活躍する政財界人、文化人らが滞在・交流する場として発展してきた歴史があります。

この地域に別荘地が形成された理由の一つに、明治4年（1871）の岩倉使節団の英国視察がありました。ロンドンの南約60kmの海沿いの町ブライTONは英国王室の離宮建設とともに政財界人の保養地・別荘地として発展しましたが、その立地条件が湘南に酷似していたのです。岩倉使節団の参加者の多くが湘南に別荘を構えていることからその影響が伺えます。

（大磯は明治政界の奥座敷）

明治18年（1885）、陸軍軍医総監であった松本順が大磯海水浴場を開設し、明治20年（1887）には^{とうりゅう}俣龍館が開館。また、鉄道の開通、大磯駅の開業も重なり、保養・療養の目的で大磯に多くの著名人が長期滞在、別荘を建築するようになりました。

大磯にはなんと8人もの宰相が別荘もしくは邸宅を構えました。その8人は、伊藤博文、山縣有朋、大隈重信、西園寺公望、寺内^{まさたけ}正毅、^{たかし}原敬、加藤高明、吉田茂。

「別荘第一期」と謂われる時代は、華族に列せられた旧公家や大名、明治政府高級官僚など別荘所有が広まっていきました。

「第二期」と謂われる明治27年（1894）以降になると、明治政界の中心人物が集まり、明治30年（1897）、伊藤博文が本籍を大磯に移してからは、私邸・^{そうろうかく}滄浪閣が政治の中心舞台となっていました。その所以もあり、政治的な会合が大磯の地で行われることが度々で、それ故、大磯は「明治政界の奥座敷」と称されたのです。この時期大磯の別荘は、160戸を超えていたといわれます。

「第三期」の明治末期になると別荘の数自体は、さらに増加しますが、転出する著名人（山縣有朋、西園寺公望など）も増え、実業家を中心とした中産階級の転入が目立ち始めました。安田善次郎、寺内正毅などが別荘を構えました。

政治家のみならず三井、三菱、浅野、大倉、^{ふるかわ}古河らの財閥や、長州、土佐などの藩閥、梨本宮ら宮家の別荘と、大磯は療養地・避暑地・避寒地として大いに繁栄していったのです。

大正10年（1921）には別荘所有者は202名に達し、その大半は京浜の居住者でした。

戦後、昭和21年（1946）の公職追放、財閥解体、財産税徴収により上流階級の別荘は売却され、東京に引き上げるものが多く、売り出された別荘を個人が再び別荘として購入するケースは少なく、企業などが買い取り、寮として利用されるケースが多くありました。



国土交通省 明治記念大磯庭園に関する基本計画検討委員会
明治記念庭園及び周辺の概況

1 六所神社 (中郡大磯町国府本郷 9 3 5)



(六所神社)



(国府祭)

御祭神 主祭神 ^{くしいなだひめのみこと} 櫛稲田姫命

^{じんろう} 人皇十代崇神天皇の頃（紀元前1世紀ころ）、出雲地方よりこの地に氏族が移住せられ開梱開発がなされました。そしてこの地を「柳田郷」と名付け、彼らの祖神たる櫛稲田姫命、^{すさのおのみこと} 素戔鳴尊、^{おおなむちのみこと} 大己貴尊（^{おおくにぬしのみこと} 大国主命）を守護神として石神台、またその名を伊勢神台（当鎮座地北西1kmの台地）に祀り、社殿を結構し、柳田大明神と称して、地域の安寧は元より、子々孫々に至るまでの弥栄を祈願したのです。この柳田大明神が六所神社の旧名であり、御創建は崇神天皇甲申の歳（紀元前97年）と伝えられています。

柳田大明神の御神徳をいただき、氏族の人々は開梱開拓に辛苦努力を重ね、東国発展の基礎を固め、また、相模国の形成に多大な貢献をなされました。

大化の改新後、国の行政も次第に整い、国司の制度が始められてゆく中、元正天皇の御代、養老2年（718）閏4月8日、石神台より現在の鎮座地に遷座し、奉遷歴勅をもつて相模國八郡神祇の中心をなすべき旨が^{せんげ}宣下されました。

桓武天皇天応元年（781）5月5日には、^{さがらしんのういぞくせいとう} 早良親王夷賊征討に際し、^{たいじょう} 退壊祈願あり、平安時代に入り相模の国府（今の県庁）が柳田郷に置かれると、柳田郷の地名も「相模の国府」と称せられるよ

うになりました。

大化の改新以来、国司は任国につくと先ず、神拝しんぱいといわれる国中の主たる神々巡拝し、国弊こくへいを頒わかつ制度がありましたが、巡拝には大変な日数と費用、人員を要するため、主たる神々の御分霊を合わせまつる祀る社、即ち「総社」を設ける習いとなりました。

相模國の場合、柳田大明神に、一之宮寒川神社、二之宮川勾神社、三之宮比々多神社、四之宮前鳥神社、平塚八幡宮の五社の御分霊を合わせ祀り「相模國総社」の成立をみました。また、六ヶ所の神社を合わせ祀ることから、国府六所宮とも称せられるようになりました。

毎年5月5日には、相模国府祭こうのまち（神奈川県無形民俗文化財）を催行し、六社の神興渡御みこしとぎよを受けます。

2 旧吉田茂邸 （中郡大磯町西小磯4 1 8）

敷地約1万坪およそ225坪の近代数寄屋建築

旧吉田茂邸は戦後の内閣総理大臣を務めた吉田茂（1878～1967）が暮らした邸宅です。もとは明治17年（1884）に吉田茂の養父・吉田健三が大磯の土地を購入し、その地に別荘を建てたのがはじまりで、養父亡き後財産の一部として吉田茂が邸宅を引き継ぎました。昭和20年（1945）より吉田は大磯の邸宅を本邸とし、晩年をこの地で過ごしました。

本施設は吉田茂が暮らした当時の邸宅を復原したものです。昭和22年ころ建てられた応接間棟、および昭和30年代に近代数寄屋建築で有名な吉田五十八が設計した新館をメインに再建しています。吉田五十八の建築の特徴は、アール・デコの要素を取り入れた直線

的な建物の外観やモルタル塗りまわしの大壁といった近代的な素材を利用した和風建築、また内部も空間を広くみせるために部屋の柱をなるべくみせない造りをとっているなど、近代数寄屋建築と呼ばれる手法が随所にみられます。吉田五十八（1894－1974）は、昭和期に活躍し、数寄屋建築を独自に近代化。第4期歌舞伎座は氏の設計で遺作は、ワシントンの日本大使館公邸。

（吉田茂とは）

吉田茂（明治11年～昭和42年）は、高知県出身の自由民権運動家である竹内綱の五男として生まれましたが、かねてからの約束により、親友であり実業家である吉田健三の養子となりました。戦前に外務官僚として諸外国での領事、書記官、大使などを歴任し、戦後は通算5期（6年2ヶ月）にわたって内閣総理大臣を務めた戦後の代表的な政治家です。

この間、昭和26年（1951）にはサンフランシスコ講話条約の締結を実現し、日本の国際社会への復帰を果たすなど、戦後復興を成し遂げ、社会の在り方を方向付ける役割を担ったといわれます。また、吉田茂は、池田隼人や佐藤栄作など、多くの後進を育ててきたことでも知られています。吉田茂邸は「吉田御殿」と呼ばれて、政界引退後も、国内外を問わず多くの要人が訪れ、政財界の要人たちが訪れることを「大磯詣」と呼びました。

（日本庭園）

昭和37年（1962）頃に完成した、造園家 中島健の設計による池泉回遊式日本庭園。建物との調和や色彩豊かな植栽がみどころ。園内には伊藤博文邸から移築した七賢堂や吉田茂の銅像もあります。

一中島健（1914－2009）吉田茂をはじめ田中角栄、河野一郎など政財界の要人の邸宅の庭を設計施工。世界各国で日本庭園を作庭。越谷市の花田苑は同氏の設計によるものです。



(日本庭園)



(兜門)

(兜門)

サンフランシスコ講話条約締結を記念して建てられた門で別名「講話条約門」と呼ばれました。京都の裏千家の兜門と同じ制作者を京都から呼び寄せて建造、昭和29年に完成。

(七賢堂)

明治36年(1903)に伊藤博文が明治維新の元勳のうち岩倉具視、大久保利通、三条実美、木戸孝充を祀った四賢堂を自身の邸宅「滄浪閣」^{そうろうかく}に建てたものでした。伊藤博文死後、婦人により伊藤博文を加えた5人が祀られ、「五賢堂」となりました。

昭和35年(1960)に吉田茂邸に移設され、昭和37年に西園寺公望を合祀し、吉田茂の死後、昭和43年(1968)に佐藤栄作の名によって吉田茂が合祀され「七賢堂」となりました。正面の扁額「七賢堂」の文字は、佐藤栄作元首相が書いたものです。



(七賢堂)

3 ^{しぎたつあん} 嶋立庵 (中郡大磯町大磯1289)

「心なき身にもあわれは知られけり嶋立沢の秋の夕暮れ」

西行法師が大磯あたりの海岸を吟遊して読んだ歌と言われ、この西行の歌にちなみ寛文4年（1664）小田原外郎家八代目の次男^{ういろう}と言ひ伝えられている蛍雪によって昔の沢らしい面影を残す景色のよい場所に嶋立沢の標石をたてました。そして石仏の五智如来像をこの地に運び、草庵「嶋立庵」を結びました。



^{しぎたつあん}
(嶋立庵)

五智如来像を本尊として西行寺を建てようとしたと言われています。

嶋立沢の標石に

「著盡湘南 清絶地（ああ 湘南 せいぜつのち）」

と刻まれており、これが湘南の言葉の始まりといわれています（湘南はさすがにしく、この上もない何と素晴らしいところ）。

美しい大磯の海岸を眺めて湘南と称された中国の湘江の南方一帯の景勝地に思いを馳せたのかもしれませんがね。



(五智如来像)



(湘南発祥の地の碑)

元禄8年（1695）紀行家で俳諧師として有名な大淀三千風^{おおよどみちかぜ}が
 鳴立庵第一世として入庵して、現在二十二世鍵和田庵主^{かぎわだ}へと引き継
 がれています。鳴立庵は京都の落柿舎^{らくししゃ}、滋賀の無名庵と並び日本三
 大俳諧道場です。

主な施設

（鳴立庵室）

大淀三千風が建てたもので、その後改修の手が加えられています。
 歴代庵主の住まいとして使われてきました。三千風が再興する以前
 に崇雪、その他の人が住んでいたようですが、庵室らしい形にした
 のは三千風によるものです。

（俳諧道場）

明和2年（1765）三世庵主白井鳥酔^{しらいちようすい}が庵の再興時に増築され
 たといわれています。十畳間には「俳諧道場」の扁額がかかり、鳴
 立庵正庵であることを示しています。

（円位堂）

三千風が建てた元禄そのままの厚い萱葺^{かやぶき}屋根の建物です。等身大
 の西行法師の座像が安置されています。

（法虎堂）

堂と木像は、三千風在庵の頃に、江戸新吉原から寄進されたもの
 と伝えられています。

安置された木造は有髪僧体の虎御前19才の姿を写したといわ
 れています。虎御前は鎌倉時代、曾我兄弟（兄祐成^{すけなり}、弟時致^{ときむね}）の仇
 討ちで有名な祐成の愛人。仇討ちで祐成が命を落としたのは虎御前
 19才の時、その後尼になって弔ったそうです。

（観音堂）

十七世庵主神林時処人が寄進した堂。本尊の観世音菩薩像は孫文
 の持仏^{じぶつ}で、二千年を経た化石仏です。

4 ^{てるがさき}照ヶ崎海岸（日本の渚百選）

相模湾奥に伸びる海岸線のほぼ中央に位置し、大磯港の西南に位置する岩礁海岸です。

海水浴の効用を蘭書で知った元軍医総監松本順が大磯に宿泊した折に、大磯海岸を訪れ、海水浴場の条件に合致することを確認しました。漁の邪魔になると



いう漁師を説得し、明治18年（1885）（^{てるがさき}照ヶ崎海岸）

に日本最初の海水浴場は誕生しました。開設者は「地勢、海潮甚だ他方に優れり、気候暖かにして山高からず」と記しています。

古くは小湊綾（こゆるぎ）の浜と言われた砂礫の美しい海岸で、さざれ石と呼ばれるさまざまな色をした小石がみられます。



アオバト（青鳩）
神奈川県天然記念物

照ヶ崎海岸の岩場はアオバトの集団飛来地（5月から10月）として有名

（大磯照ヶ崎海水浴場の碑）



とうりゅうかん

明治中期の大磯海水浴場（禰龍館繁栄之図）

（大磯町郷土資料館蔵）

5 平塚八幡宮 (平塚市浅間町1-6)



御祭神

おうじん

應神天皇

じんぐう

神功皇后

たけのうちのすくね

武内宿禰

本宮は、その昔 鶴峯山八幡宮と称せられ、應神天皇、神功皇后、武内宿禰をお祀りする神社で、神功皇后は境内東側の亀甲山に、武内宿禰は境内西側の丸山にお祀りされていましたが合祀され現在に至っています。相模國の第五の宮として相模^{こうのまち}國府祭に参向し、平塚新宿、八幡、馬入の鎮守です

仁徳天皇の68年(380)、この地方に大地震があり、人民の苦難のさまを聞召した天皇が^{みことのり}「詔」して国土安穩祈願のため應神天皇をお祀りしたのが創紀であります。

^{てんびょうしょうほう}天平勝宝の古記によると、^{けんぞう}顕宗天皇が、^{こあゆにえ}小年魚贅の^{かしわでべ}膳部を定めてその料として、年々稻秀、麦、大豆を多量に献げられ、仁徳天皇は四千余町の土地をお寄せなられました

推古天皇の代、この地方にまた大地震があり、人民の苦しみを見かねて天皇は“鎮地大神”の^{しんびつ}ご宸筆を捧げて国土安穩を祈願され、新たに社殿を造営になられ、天武天皇はこの地の3分の2をご寄進になり、文武天皇は“天晴彦”の宝剣を奉納になられたことを伝えております。

寛永14年(1637)筆録の八幡宮記 新編相模風土記によると、聖武天皇は相州一國一社の靈場として法華經を奉獻されたというこ

とです。

岐阜県高山市山口に鎮座の桜ヶ丘八幡神社（旧郷社）は寛治元年（1087）当宮の分霊が勧請^{かんじょう}されたもので、高山祭で有名な桜山八幡神社の本社です。

建久3年（1192）、源頼朝は婦人安産のため神馬を奉納し、天正19年（1591）には徳川家康は、社領五十石を寄進し、慶長年間には自ら参拝し、伊奈備前守に命じて社殿の再建を行っています。

正保3年（1646）幕府は、社殿宮繕料として山林2ヶ所を寄進しております。

明和2年（1765）平塚宿の僧 本誓還真^{ほんよかんしん}が18年の間浄財を集め、青銅の鳥居を奉獻したことは青銅に刻まれて今も社頭に聳^{そび}えています。

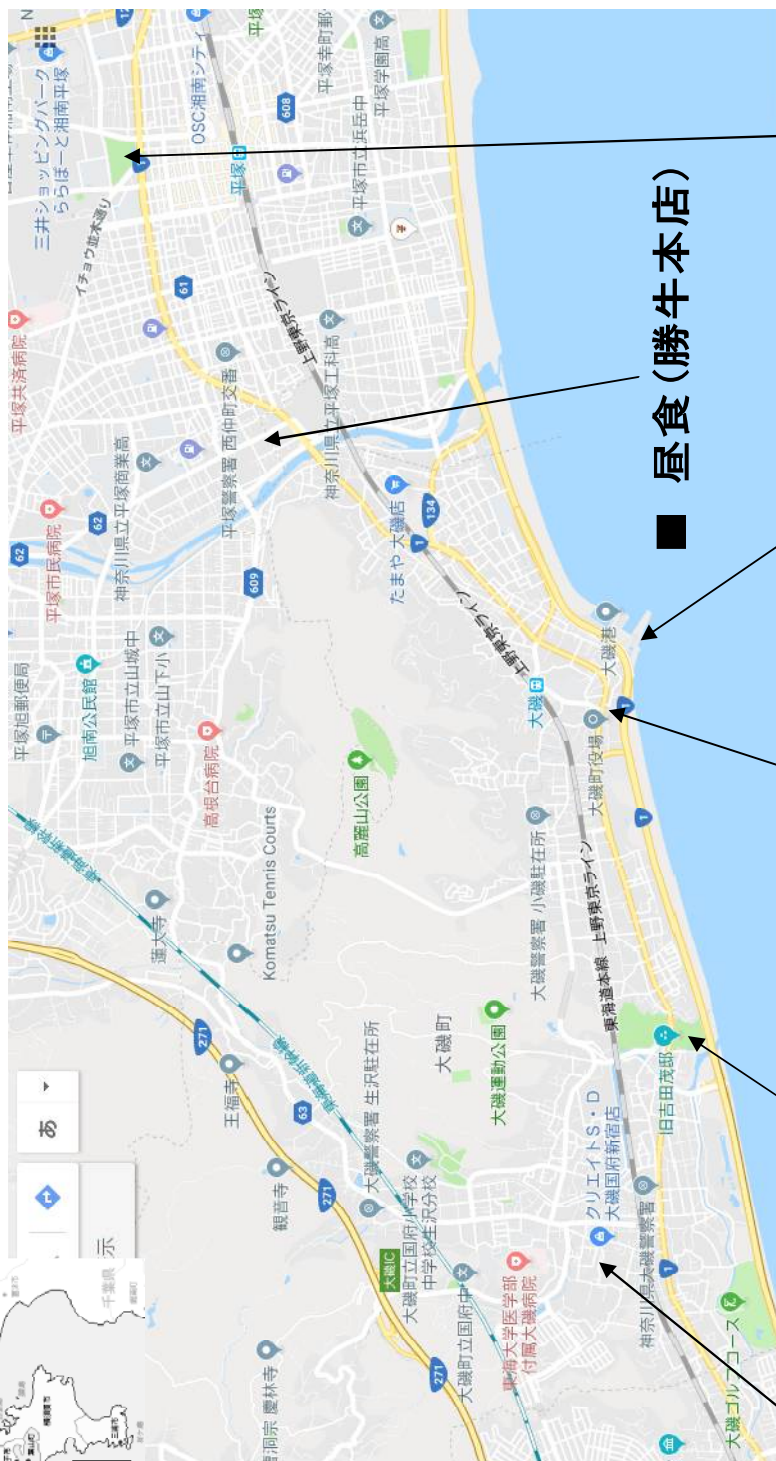
明治6年（1873）、官の達示により社名を八幡神社と改称しました。

明治27年（1894）、明治天皇の王女 常宮・周宮両内親王殿下が参拝になられ、社頭に松樹をお手植えになり、神池へ緋鯉を放生になりました

本宮は創紀の昔から“鎮地大神”として称えられ、厄除、招福の神として信仰厚く、祭神の應神天皇、神功皇后は、大陸文化を採り入れた功績から文化神として、又限らない慈しみと深い母性愛を表される母子神として安産、生育、学業、武運の守護に奈良、平安、徳川時代、現在と崇敬敬仰を集めてまいりました。昭和28年（1953）、神社本庁の包括する別表に掲げる神社として全国有名神社の代表の中に列なる栄誉を担い、現在に至っています。昭和53年（1978）8月、本宮は“平塚八幡宮”の社号に改称されました。

（参考資料）

大磯町公式ホームページ、鳴立庵ホームページ、各種パンフレット



- 1 六所神社
- 2 旧吉田茂邸
- 3 鴨立庵
- 4 照ヶ崎海岸
- 5 平塚八幡宮

■ 屋食(勝牛本店)